

再生可能エネルギーと燃料電池

【実験のお話】

- 昔々、人里離れた山奥に、「シルバニアさん」一家が仲良く住んでおりました。
- ある夏の日夕方、お父さんはお母さんに話しました。「そろそろ、子供たちのために、テレビを見られるようにしてあげないか？」と…
- お母さんは、「でも、この山奥には電気が来てないよね…」
- お父さんは、「電気はお空からもらうもの！使っても減らない**再生可能エネルギー：太陽光**を活用しよう！」と話しました。
- お父さんは、一生懸命働き「**太陽光発電パネル**」を買い、昼間のうちに取り付け終わりました。
- 子供たちは、「わーい！ テレビが見られるよ！ お父さんありがとう！」、お父さんは大変幸せな気分になりました。



- そして夜がやってきました。家族で盛り上がって見ていたテレビは突然停止、子供たちは泣き出してしまいました。お父さんは、「そうか！**太陽光発電は、夜には発電しないんだ！残念**」と…。
- 次の日お母さんは、山の上のオール電化の風車小屋に住んでいる「**ペー おじさん**」に相談にゆきました。「どうしたら夜でもテレビが見られるのでしょうか？」
- ペーさんは、「**2本の鉛筆芯**」を差し出しました。そして、「この芯を塩水につけて、太陽光発電パネルの出力につないでおきなさい」と教えてくれました。お母さんは言われた通りに作りました。



- 一日が過ぎ、また夜がやってきました。すると不思議・不思議、夜になってもテレビは止まりません。
- ペーさんは教えてくれました。「鉛筆芯の中に昼の間に貯めた「**水素**」が、**夜には水に変化し、その時に電気が発生してテレビが見えるんだよ**」これは**燃料電池**の原理となります。
- これで山奥のシルバニアさんのおうちは、電力自給自足がテレビを見られる「**ゼロエミッションハウス**」になりましたとさ♪



♪♪ おしまい ♪♪

※ ゼロエミッションハウス＝「発電に伴う有害排出物の発生が最小であるおうち」